法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-03-14

鳩間方言の人体関係語彙（Ｉ）

加治工，真市

(出版者 / Publisher)
法政大学沖縄文化研究所
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
琉球の方言 / 琉球の方言
(巻 / Volume)
18-19
(開始ページ / Start Page)
215
(終了ページ / End Page)
226
(発行年 / Year)
1995-02-24
(URL)
https://doi.org/10.15002/00012665

Hosei University Repository

鳩間方言の人体関係語彙 （I）

加治工　真　市

ア⌜カ⌝ジラー　⌝ナスン [ʔa⌜ka⌝dʒira:　⌝nasuŋ]（句）。相手を侮辱し、面目を失わせる。恥を掻かせる。例、ウ⌜ビ⌝ヌ　プスヌ⌝　ナカ⌝ナーティ　アカ⌝ジラー　ナサ⌝リティ　バッカヤ⌝ヌ　⌝ウナー　ブ⌜ラランセン [ʔu⌜bi⌝nu pu⌜sunu⌝ na⌜ka⌝na: ti ʔa⌜ka⌝dʒira: na⌜sa⌝riti bak⌜kaja⌝nu ʔuna: bu⌜raranseŋ]（あれだけの人の中で、恥をかかされて、恥かしくて、そこにはおれなかった）

ア⌜キミックヮー [ʔa⌜kimikkwa:]（名）「明き盲」の義。無学の人。文字の読めない人。無学の人を卑しめた言い方。例、イ⌜カナ⌝　ア⌜キミックヮー　⌜ヤラバン　⌝アイヤ　プ⌜スヨ⌝　ウ⌜サイルムノー⌝　アラ⌝ヌ [iʔ⌜kana⌝ ʔa⌜kimikkwa: ⌜jarabaŋ⌝ʔaija: pu̥⌜sujo:⌝ ʔu⌜sairumuno:⌝ ʔa⌜ra⌝nu]（いかに文盲であろうとも、あのように人を見下し、ばかいするものではないよ）

⌜イン⌝ヌヤー [⌜ʔin⌝nuja:]（名）ものもらい。目のふちにできる腫れ物。瞼の睫の生えたところや目尻、目頭のあたりが、カサカサして異物感があって一昼夜ほどたつと、ものもらいになることが多かった。例、⌜イン⌝ヌヤーヌ　⌝ンジティ　⌜ミー⌝ヤ　ア⌜ガーガ⌝シ　パ⌜リベー⌝ [⌜ʔin⌝nuja: nu⌝ ʔndʒiti ⌜mi: ⌝ja ʔa⌜ga: ga⌝ʃi pa⌜ribe⌝:]（ものもらいができて、目が赤く　腫れている）

イ⌜シスブラー [ʔi⌜ʃisubura:]（名）「石頭奴」の義。「頑迷固陋の奴」の意。イシスブル（石頭）に、-ja：（～奴、～人）の接尾辞が下接して形成された語、卑語。例、アイ⌜ブ⌝　イ⌜シスブラー⌝　ティン　⌜ブン⌝ツォ　⌝カー [ʔai⌜bu⌝ ʔi⌜ʃisubura:⌝ tim ⌜bun⌝tso ⌝ka:]（あんな石頭奴《頑迷固陋な奴》なんて、他に居るものか、珍しい限りだ）。

イ⌜シスブル [ʔi⌜ʃisuburu]（名）「石頭」の義。①「石のように硬い頭」、例ウ⌜リヌ⌝　ス⌜ブ⌝ロー　イ⌜シスブル⌝　ヤ⌜ルンダ⌝　ヤ⌜マ⌝ヌ [ʔu⌜rinu⌝ su⌜bu⌝ro: ʔi⌜ʃisuburu⌝ ja⌜runda⌝ ja⌜ma⌝nu]（彼奴の頭は石頭だから痛くない）。

②「頑迷固陋である」。例、⌜ウンザー⌝　イ⌜シスブル⌝　ヤ⌜ルンダ⌝　プ⌜スヌ⌝　ムニシゥ⌜カヌ⌝　[⌜ʔundza:⌝ ʔi⌜ʃisuburu⌝ ja⌜runda⌝ pu̥⌜sunu⌝ muni si̥⌜kanu⌝（彼奴は、頑迷固陋であるから、他人の言うことばは聞かない）

ウ⌜キスー⌝ルン [ʔu⌜kisu:⌝ruŋ]（動）赤児や乳児などが眠りからすっかり目覚める。赤児や乳児が朝目覚めて手足を動かしながら、目を大きく見開く。ヤ⌜ラ⌝ベー　⌜ミー⌝ヤ　キサー⌜ティ⌝　ウ⌜キスー⌝リティ　ン⌜ゴーンゴー⌝シ　サ⌜ニンケーリベーン⌝ティ

Hosei University Repository

[ja˥ra˩be: ˥mi:˩ja kisa:˥ti˩ ʔu˥kisu:˩riti ʔŋ˥go: ʔŋgo:˩ʃi sa˥niŋke: ribe: n˩ti]（赤児《童》は、目はすでに目覚めて、ンゴーンゴーといって喃語を発して喜んでいるよ）

˥ウッ˩ソン [˥ʔus˩soŋ]（名）盆の窪。首の後から後頭部に至る途中の窪んだ所。頭痛の際、両手の拇指でそこを強く押し、中指でひよめきの部分を押して頭痛を治す民間指圧療法のつぼがあると言われている。

また、乳幼児などは、[˥ʔus˩son] の部分の頭髪を残して、他の頭髪は刈る風習がある。伝承によると、ウッソンに髪を残しておくと風邪をひくこともなく、魔がつくこともないという。この部分の頭髪を、カ˥ミヌ・ズー [ka˥minu-dzu:]（亀の尾）という。乳幼児死亡率が高かった頃、乳児を魔の手から防ぐために、長寿の象徴である「亀」に長寿の予祝をを授けてもらう願意と、この部位が大切な所であることを経験的に知っていて、そこを外傷から守る意味もこめて命名したものであろう。˥ウッソン˩ヌ　カ˥ミヌ・ズーヤ˩ス˥ル˩ナ [˥ʔusson˩nu ka˥minu-dzu:ja˩ su˥ru˩na]（盆の窪の髪　「亀の尾」は剃るな）。

ウ˥ブ・スブ˩ル [ʔu˥bu-subu˩ru]（名）「大頭」の義。異常に頭の大きな人。大頭症の人。生まれつき、頭が大きく、体格がひ弱な人。ウ˥ブ・スブ˩ラー [ʔu˥bu-subu˩ra:]（˥大頭症の人」の卑語）。これは、ウ˥ブスブ˩ル [ʔu˥bu-subu˩ru]（大頭）に接尾辞-ヤー [ja:]（～奴）が下接して形成された語。喧嘩する際に、ウ˥ブ・スブ˩ラー　˥マーシ˩ノ [ʔu˥bu-subu˩ra:　˥ma: si˩no]（大頭奴めが）などと言って相手を罵倒するのに用いた。

ウ˥ム˩ティ [ʔu˥mu˩ti]（名）、˥面（オモテ）」の義、「顔」の意。ウ˥ム˩ティ　フ˥クルン（顔が腫れる）とは言えるが、「不機嫌になる」の意で、ウ˥ム˩ティ　フ˥クルン [ʔu˥mu˩ti Φu˥kuruŋ] とは言えない。また、ウ˥ム˩ティ [ʔu˥mu˩ti]（面）は、ウ˥ム˩ティ　˩シムン [ʔu˥mu˩ti ˩simuŋ]（面（オモテ）を《顔を》澄ます《洗う。洗顔する》）のように用いられる。

˩カーミー [ka: mi:]（名）「皮目」の義。一重瞼のこと。一重瞼の人は、目蓋が腫れぼったいように見え、女性の場合はどことなく憂顔に見えるのに対し、男性の場合は、睡眠不足の顔に見える。例、ヤ˥マトゥ˩プスナール　カーミーヤ　˥ゴー˩ラー　˥ナー [ja˥matu-˩puṣuna: ru ˩ka: mi: ja ˥go: ˩ra: ˥na:]（大和人《本土出身者》の中に、一重瞼の人は多いようだねえ）

カ˥タスブ˩ル [kạ˥tasubu˩ru]（名）「片頭」の義。カ˥タスブル・˩ヤン [kạ˥tasuburu-˩jaŋ]（˥片頭病み」の義。偏頭痛のこと）。˩ヌンティル　アイ˥ブ˩ユー　カ˥タスブル˩ヌ　˩ヤム　˥ツォー [nuntiru ʔai˥bu˩-ju: kạ˥tasuburu˩nu ʔamu˥tso:]（どうしてなのか、偏頭痛がするんだよ）。パ˥ナシキ　˥ママリティ˩　カ˥タスブル˩ヌ　˥グッ˩ファ　˥ツォー [pa˥nasiki ˥mamariti˩ kạ˥tasuburu˩nu ˥guf˩fa ˥tso:]（風邪をひいて、片頭が重い《偏頭痛がする》）

カ˥タ˩ミー [kạ˥ta˩mi:]（名）「片目」の義。カ˥タミー˩ヤ　ッ˥サイ [kạ˥tami:˩ja s˥sai]

Hosei University Repository

(片目はつむりなさい《閉じなさい》)。「ティップ˥シ ˥カマイ イ「ル˥ ピンマー カ「タミー˥ヤ ッ「サイティ˥タミ [「tippu˥ʃi ˥kamai ʔi「ru ˥pimma: kạ「tami:˥ja s「saiti˥tami] (鉄砲で猪を射る《撃つ》ときは、片目をつぶって狙いなさい)

「**ガッ˥パイ** [「gap˥pai] (名) 前頭肥大頭。前頭部が肥大し、発達した頭をいう。ガッ˥パイ・スブル [「gap˥pai-suburu] ともいう。これも卑語化すると、「ガッパ˥ヤー [「gappa˥ja:] となる。最近は産婦も病院で分娩するせいか、ガッ˥パイ・スブルのような頭の形態が少なくなっているようである。昔(昭和30年頃まで)は、幼児などが「ガッ˥パイスブルとか、「ガッパ˥ヤーなどと渾名されて、それが悔しくて、喧嘩をしたものである。

カ「ラ・スブル [ka「rasuburu] (名) 頭蓋骨。しゃれこうべ。ア「ライ・クサイ [ʔa「rai-kusai] (洗骨の法事)の際に埋葬した遺骨を骨壷に納め、墓の中に入れた。その頭蓋骨を、サ「リ・スブル [sa「ri-suburu] ともいう。洗骨のことを、「シン˥クチ [「siŋ˥kutʃsi] (「洗骨」の義)ともいう。イ「ラ˥カマイナー カ「ラスブルヌ 「アッ˥タン [ʔi「ra˥kamaina: ka「rasubunu ʔat˥taŋ] (イ「ラ˥カマイ《地名、大前の南側》には頭蓋骨があった)

「**カンパー** [「kampa:] (名) 頭部に損傷を受け、傷跡が禿げているもの。その人を多少卑しめていう場合に用いる。ニックネームとして用いられる。また、愛称や尊敬の接尾語「アー˥ザ [「ʔa:˥dza] (兄)が下接して、「カンパ・ザー [「kampa-dza:] (カンパ兄)のように用いられるが、本人に対する呼称としては用いられない。名称として用いられる。カ「ザケヌ 「カンパザー 「バン˥タ イ「チ˥フ [ka「dzakenu 「kampadza: 「ban˥ta ʔi「tsi˥Φu] (加治工のカンパ兄は私たちの従兄弟だ)

カンパザー [「kampadza:] (名) カンパ兄さん。頭部に傷跡の禿げのある人を敬って言うときに用いることば。本人に対する呼称としては用いない。例、「カ「ザケ˥ナー 「カンパザー˥ティ ア「ズ˥ プ「ソー 「オーッタン˥ メー [ka「dzake˥na: 「kampadza:˥ti ʔa「dzu˥ pụ「so: 「ʔo:ttam˥ me:] (加治工家にカンパ兄さんという人はおられたかねえ)

「**カンパツァー** [「kampatsa:] (名) 頭部に損傷を受け、その部分の傷跡が禿げている人。多少、相手を揶揄する気分がこめられている。一種の卑語。また、親愛、尊敬の接尾語 -a:˥dza (兄)が下接すると、「カンパツァザー [「kampatsadza:] (カンパチ兄さん)のように用いられる。

「**カンパチ** [「kampatʃi] (名) 頭部に損傷を受け、その部分の傷跡が禿げているものをいう。そのような人に対しては、「カンパー [「kampa:] といい、卑語化する。ニックネームとして用いられたりする。例、ク「ヌ 「カンパチェー˥ ヨー ヤ「ラ˥ビ 「シェーン˥ケン 「キーヌ・パン˥ターラ ˥ウティティ ス「ク˥レーム ダ「レ˥ー [ku「nu 「kampatʃe:˥

Hosei University Repository

jo:　ja˩ra˥bi　˩ʃe:ŋ˥keŋ　˩ki:nu-pan˥ta:ra　˥ʔutiti　sʉ˩ku˥re:mu　da˩re˥:]（このカンパチは、幼少の頃、木の先端より落ちてつくったものだよ）

シ˩カ˥ミー［ʃɨ˩ka˥mi:］（名）「近目」の義。近視のこと。遠視に対する語は認められないが、40歳代になると、˩ミー˥ヌ　˩ムイルン［˩mi:˥nu　˩muirun］（目が燃える。ジラジラして見えにくくなる）などと言う。例、˥ダンプヌ　ガ˩ル˥ナー　˥クマー˩クマーヌ　ジーバ˥　ユミティール　シ˩カ˥ミー　˥ナレー　ヨー［˥dampunu　ga˩ru˥na　kuma:　˩kumanu　˩dʒi:ba˥　jumiti:ru　ʃɨ˩ka˥mi:　˥nare:　jo:］（ランプの明りのもとで細かい字を読んだので近視になったのだよ）

˥シラ［ʃira］（名）「面（ツラ）」の義。顔のこと。ウ˩ム˥ティ［ʔu˩mu˥ti］（「面（オモテ）」、顔のこと）に対して、多少、品位の落ちる表現性を有する。˥シラ　˥ウトゥン［˥sira ʔutuŋ］（面（ツラ）を打つ、殴る）、˥シラ　フ˩クルソ［˥ʃira Φʉ˩kuruŋ］（面腫れる、腫れ面をする）、˥シラフクラー［˥ʃira　Φʉkura:］（ふくれっつらの人《女性》、不平たらしい女）。˥シラ　ガ˩ラヌ［˥ʃira　ga˩ranu］（顔が明るくならない。暗い顔つき、はればれとしない。）ン˩カイジラーラ˥　スズー˩コ˥　イ˩ザレー˥ン［ʔŋ˩kai-dʒira:ra˥　sudzu:˩ko˥　ʔi˩dzare:˥ŋ］（向かえ顔より《初対面から》したたかに叱られた）のようにマイナス面の表現と結びつくことが多いようである。また、ウ˩リヌ˥　シ˩ラスクリヨー˥ヤ　ビ˩ケーヌ・ウヤ˥トゥビッ˩ツティ　ニーブ˥　ツォー［ʔu˩rinu˥　ʃi˩rasukurijo:˥ja　bi˩ke:nu-ʔuja˥tu　bit˩t-suti　ni:bu˥　tso:］（これ《この子》の　造り様《面（つら）つき、顔つき》は父親とそっくり似ているそうだ）

シ˩ラー˥マ［ʃi˩ra:˥ma］（名）「小さな顔」の意。ーマ［-ma］は指小辞。親愛の情を表す接辞でもある。シ˩ラー˥マは、疾病等により、顔が痩せ細って小さくなったもの。例、˩ヤン˥マイン　ウ˩ソーリ　˩ヨーガリティ˥　シ˩ラー˥マ　ナリ　˩オー˥ル［˩jam˥maiŋ　ʔu˩so:ri　˩jo:gariti˥　si˩ra:˥ma　nari˩ʔo:˥ru］

（病気にうちのめされて、痩せ細って、小さな顔になっておられる）

シ˩ラカタ˥チ［ʃi˩rakata˥tʃi］（名）「顔形」の義。顔つき、容貌、面だち、顔だち、マ˩リカタチ［ma˩rikatatʃi］（「生れ形」の義。生れつきの容貌の意）の対語として用いられる。例、シ˩ラカタ˥チン　マ˩リカタチン˥　アザ˩ケー・アザケー˥シティ　イ˩カ˥シゥク　ア˩タ　ラ˥サ　ワ　˩ツォー［ʃi˩rakata˥tʃim　ma˩rikataʃiŋ˥　ʔadza˩ke:-ʔadzake:˥-ʃɨ˩ti　ʔi˩ka˥sɨ̈ku　ʔa˩tara˥sawa　˩tso:］（顔つきも、容貌も楚楚として　どんなにか可愛いことか）

˥シラフクラー［˥ʃira Φʉkura:］（名）腫っ面の人（女）。不平不満の気持ちを表情に表す人。女は通常、自分の気持ちを言葉に表すことをしないで、腫っ面をして、不承不承、命ぜられるままに従って仕事をした。シラフクラーをすることが、精一杯の反抗であった。親や姑は、娘や嫁の気持ちを汲みとり、最後には娘や嫁の無言の主張を容認した。封建時代に

Hosei University Repository

おける自己主張の便法として、娘や嫁たちは、シラフクラーを活用した。

シ⌜ラ⌝ヌ　⌝カー　[ʃi⌜ra⌝nu　ka:]（連語）面の皮。鉄面皮、恥知らず。例、⌜ヌー⌝シ　⌜ブー⌝　シ⌜ラ⌝ヌ　⌜カー⌝バ　⌝ムティ　⌜ブー⌝ユー　バ⌜カ⌝ヤン　⌜ナー⌝ナ　⌜セー⌝ティ　⌜アー⌝ク　⌜ツォー　[⌜nu:⌝ʃi　⌜bu:⌝　ʃi⌜ra⌝nu　⌜ka:⌝ba　muti　⌜bu:⌝ju:　ba⌜ka⌝jan　⌜na:⌝na　⌜se:⌝ti　⌜ʔa:⌝ku　⌜tso:]（どんな面の皮を持っているのか、恥しげもなく、ふるまっているよ、珍しいことだ）

シ⌜ラ⌝ヌ　⌜ソー　[ʃi⌜ra⌝nu　⌜so:]（連語）「面（つら）の性」の義。正気か狂気かは表情によって判断できるが、その表情に現れた正気をいう。発狂するときは、シ⌜ラ⌝ヌ　⌜ソー　[ʃ⌜ira⌝nu　⌜so:]（面の性、表情）が失われるという。例、「ミー⌝ヤ　ウ⌜キティ⌝　シ⌜ラ⌝ヌ　⌜ソー　ン⌝　ウ　ティ　⌜ナー⌝ヌ　[⌜mi:⌝ja　ʔu⌜kiti⌝　ʃi⌜ra⌝nu　⌜so:ŋ⌝　ʔuti　⌜na:⌝nu]（目が浮いて《焦点が定まらず、キョロキョロして》、顔の表情も、正気が失われてしまった）

ス⌜ブ⌝ル　[su⌜bu⌝ru]（名）①頭、「つぶり」の転。「つぶら」（円）と同源。頭蓋を構成する部分の総称。カ⌜ラスブル　[ka⌜rasuburu]（頭蓋骨、しゃれこうべ）。プ⌜スヌ・スブ⌝ル　[pu̥⌜sunu-subu⌝ru]（人の頭）、イ⌜ズヌ・スブ⌝ル　[ʔi⌜dzunu-subu⌝ru]（魚の頭）、ウ⌜シヌ・スブ⌝ル　[ʔu⌜ʃinu-subu⌝ru]（牛の頭）、②脳、能力、才能、例、ス⌜ブ⌝ロー　カ⌜チ⌝ブ　[su⌜bu⌝ro:　kḁ⌜tʃi⌝bu]（頭は勝っている。優れている）③ス⌜ブ⌝ル　⌜グッ⌝ファン　[su⌜bu⌝ru　⌜guf⌝faŋ]（頭が重い、気分がすぐれない、風邪気味である）。④ス⌜ブル⌝ヌ　⌝ヤミ　ナ⌜ラ⌝ヌ　[su⌜buru⌝nu　⌝jami　na⌜ra⌝nu]（頭痛が激しい。《頭が病み、どうにもならぬ》）。「頭痛」のことを、ガ⌜マジ⌝ヤミ　[ga⌜madʒi⌝-jami]　ともいう。熱はないのに頭痛がある場合、両手の拇指でこめかみのあたりを押さえ、中指でピ⌜ルキ　[pi⌜ruki]（ひよめき）のあたりを押さえた。また、よもぎ（蓬）の汁を飲ませて鎮痛薬とした。

ス⌜ブル⌝イシ　[su⌜buru⌝iʃi]（名）「頭石」の義。「半球形の珊瑚石」のこと。海石一種。ミドリイシ科やキクメイシ科に属する珊瑚石で、直径30cm～60cmの半球形に形成されているのが多い。表面に菊花状の珊瑚の突起物がある。干潮時には海面上に現われ、人頭形に見えることから命名されたもの。昔（戦前）は、それをイ「シジ　[ʔi⌜ʃidʒi]（礎石）として家屋建築に用いた。

⌜ソー⌝マー　[⌜so:⌝ma:]（名）「白目」の義。斜視のこと。生れつき、瞳が内側や外側に寄りすぎて、白玉《水晶体》の部分が多い目のこと。またそのような人。例、マ⌜ナマ⌝ヌ　⌜ユーヤ⌝　イ⌜サ⌝ヌ　イッ⌜ケナ⌝　カナイ　⌜オー⌝レーティ　⌜ソー⌝マーン　⌜ノーシ⌝ソー　ル　[ma⌜nama⌝nu　⌜ju:ja⌝　ʔi⌜sa⌝nu　ʔik⌜kena⌝　kanai　⌜ʔo:⌝re:ti　⌜so:⌝ma:n　⌜no:ʃi⌝so:ru]（今の世《現代》は医者が優れておられるので、斜視も直すことがおできになる）

Hosei University Repository

ダ˩リ˥ミー [da˩ri˥mi:] (名)「垂れ目」の義。目尻が垂れさがっている目、その人。目尻の下った人はおとなしく、気性の穏やかな人と言われている。従順ではあるが、活気がなく、積極性もなく、怠惰で人に指図される側面をもつイメージが大きい。例、ダ˩リミー˥ヤ　イ˩キブイヌ˥　ミ˩ララン˥バン [da˩rimi:˥ja　ʔi˩kibuinu˥　mi˩raram˥baŋ] (垂れ目の人は、覇気が見られないわい)

ッ˩フ˥タマ [f˩fu˥tama] (名)「黒玉」の義。瞳や虹彩のこと。これを、˩ミーヌ˥ッファ [˩mi:nu˥-ffa] (目の子) ともいう。例、ヤ˩ラビ˥パダナ　パ˩ナン˥ギ　˩シーティル˥　グ˩シ˥シ　˩ミーヌ˥　ッ˩フ˥タマ　˩ウイヌキ　ミッ˥クヮー　ナレーティ　˥ムカー [ja˩rabi˥padana　pa˩naŋ˥gi　˩ʃi:tiru˥　gu˩ʃi˥ʃi　˩mi:nu˥f˩fu˥tama　˩ʔuinukiti　mik˥kwa:　˥nare:ti　˥muka:ja] (子供の頃にいたずらして小竹で瞳を突き刺し、盲になったんだよ)

ッ˩ス˥タマ [s˩su˥tama] (名)「白球」の義。眼球の水晶体のこと。例、トゥ˩シ˥　トゥルカー　˩ミー˥ヌ　ッ˩スタマ˥ヌ　ユ˩ヌンゴー˥リティ　ムヌ　ミ˩リングリ˥サー　ナル　ツォー [tu˩ʃi˥　turuka:　˩mi:˥nu　s˩sutama˥nu　ju˩nuŋgo:˥riti　mi˩riŋguri˥sa:　˥naru　˥tso:] (年をとると、目の白球《水晶体》が濁って、ものが見にくく《見づらく》になるそうだ)

˥ナダ [nada] (名) 涙。˩ミー˥ナダ [˩mi:˥nada] (涙) ともいう。ナミダ→ナンダ→ナダのように音韻変化を起こしたものであろう。例、˩ゾールゾール˥シ　ナダ　パ˩ラ˥シ　ナ˩キベ˥ー [˩dzo:rudzo:ru˥ʃi　˥nada　pa˩ra˥ʃi　na˩kibe˥:] (ゾールゾール音をたてて涙を走らせ《流し》て泣いている)。鳩間方言では、涙は音をたてて流れ落ちるし、走るように流れ落ちるから音がたつのであろう。

ナ˩ダマー˥ルン [na˩dama:˥ruŋ] (動) 涙ぐむ。涙が眼球の囲りに滲み出て、目が赤らむ。ものごとに感動したときに目が赤らんで、涙が滲み出てくる。例、˥アイブ　˩ボーキリ˥ムヌ　ヤ˩タンドゥ˥　ウ˩ヤ˥ヌ　˩サウバ˥　シ˩キティ˥　ナ˩ダマー˥リ　˩ベー˥タ [˥ʔaibu　˩bo:kiri˥munu　ja˩tandu˥　ʔu˩ja˥nu　˩sauba˥　ʃi̥˩kiti˥　na˩dama:˥ri　˩be:˥ta] (あんな暴れん坊であったが、親の左右《近況、便り》を聞いて涙ぐんでいたよ)

ナ˩ダヨー˥ン [na˩dajo:˥ŋ] (形) 涙もろい。「涙弱い」の義。ものごとに感動して涙を流しやすい様。結願祭の村芝居などに感動して、老人たちが目を真赤にし、涙を流して観劇したが、中でも故米盛松氏は有名であった。例、ナ˩ダヨー˥　ア˩ロー˥ル　プ˩ソー˥　ッ˩ファ・マー˥ヌ　˩キョン˥ギン　˥ミリティン　ナ˩キソーッ˥タ [na˩dajo:　ʔa˩ro:˥ru　pu̥˩so:˥　f˩fa-ma:˥nu　˩kjoŋ˥gim　˥miritin　na˩kiso:t˥ta] (涙もろい人は、子や孫の狂言《芝居》を見ただけでも泣きなさったものだ)

˥パガー [˥paga:] (名) 禿げ頭野郎。卑語。屋号が上接すると個有名詞となる。たとえば、

Hosei University Repository

[ka⌜dzakenu⌝-paga:]（加治工家の禿げ頭氏）のようになる。それに、親愛、尊敬の接尾語、アー⌝ザ［⌜ʔa:⌝dza］（兄）が下接して、しばしば、[ka⌜dzakenu⌝-paga: dza:]（加治工の禿げ頭兄）のように用いられる。この段階からは、愛称のニックネームとして用いられるが、当の本人に対して、呼称として用いられることはない。名称として用いる。

パ⌜ギスブ⌝ル［pa⌜gisubu⌝ru］（名）禿げ頭。頭髪が抜けて、頭頂部がつるつるしている頭。遺伝的に頭髪が抜け落ちたものをいう。卑語化すると、⌝パガー［paga:］（頭の禿げた奴）のようになる。例、⌜クン⌝ネヌ　プ⌜ソー⌝　パ⌜ギスブル⌝ヌ　タ⌜クライ［⌜kun⌝nenu pu̥⌜so:⌝　pa⌜gisuburu⌝nu　ta̧⌜kurai］（この家の人は遺伝的に頭の禿げる家がらである）頭部の傷跡が禿げているものには、パ⌜ギスブ⌝ルとは言わない。

ピ⌜サ・スブル［pi̥⌜sa-suburu］（名）「平頭」の義。後頭部が平たいもの、またその人をいう。産後、乳児を一方にだけ向けて寝かせる癖をつけると、その方の後頭部が平たく変形すると言われていた。アガッ⌜ファー⌝マー　ユ⌜ヌン⌝トン　カー⌜ニ⌝　カ⌜トンカ⌝シ　ニ⌜バシティ⌝　ピ⌜サスブル⌝　ナ⌜ラ⌝シ　シケー［ʔagaf⌜fa:⌝ma:　ju⌜nun⌝toŋ　ka:⌜ni ka⌜tonka⌝ʃi　ni⌜baʃiti⌝　pi̥⌜sasuburu⌝　na⌜ra⌝ʃi　ʃi̥ke:］（赤子を、同じところにだけかたむけて寝かして、平頭に変形させてある）

ピ⌜ルキ［pi⌜ruki］（名）ひよめき。泉門。乳幼児など、前頭と後頭の骨の接合するところで、そのすきまの、ピクピクと鼓動の観察される所。幼児期に、子供が引き付けを起こす際、母親が口に水を含んで、ピルキの部分に吹きかけて蘇生させる習慣があった。例、ピ⌜ルケーラ⌝　ミ⌜ジ⌝　フ⌜キ⌝カキティ　イ⌜キガイラ⌝シ［pi̥⌜ruke: ra⌝　mi⌜dʒi⌝　Φu̥⌜ki⌝ka̧kiti　ʔi⌜kigaira⌝ʃi］（泉門の所から水を吹きかけて生きかえらせなさい《蘇生させなさい》）。

また、激しい労働に従事して繁忙をきわめている様子を比喩的に表現する場合、ピ⌜ルケーラ　⌝イキ　⌜スン［pi⌜ruke: ra　⌝ʔiki　⌜suŋ］（泉門《ひよめき》より息をする《呼吸する》）のように言う。

ブ⌜リ⌝ミー［bu⌜ri⌝mi:］（名）「折れ目」の義。目蓋が折れ重なっているもの。二重瞼の意。例、⌜ベー⌝　ウ⌜キナー⌝プソー　ブ⌜リミーン⌝ドゥ　⌜ゴー⌝ラー　⌝カーミーヤ　⌜イシゥカー⌝ル　⌝ヨー［⌜be:⌝　ʔu⌜kina:⌝puso:　bu⌜rimi: n⌝du　⌜go:⌝ra:　⌝ka: mi: ja　⌜ʔis ï̥ka:⌝ru　⌝jo:］（我等《聞き手を含む》沖縄人は、二重瞼が多いんで、皮目《一重瞼》は少ないよ）。

⌝ミー［mi:］（名）目。視覚器官の総称。　⌜ミーコー⌝ルン［⌜mi: ko:⌝ruŋ］（⌜目が強張る⌝、目が冴えて眠ることが出来なくなる）。⌜ミーコー⌝ヤー［⌜mi: ko:⌝ja:］（名）お目覚めとして朝食の前に食するもの。

⌜ミーサマ⌝スン［⌜mi: sama⌝suŋ］（動）（目を覚ます）。⌜ミーサミ⌝ルン［⌜mi: sami⌝ruŋ］（目覚める）。⌜ミーパシゥ⌝カーン［⌜mi: pasï̥⌝ka: ŋ］（まぶしい）。⌝ミー　ッ⌜サウン

Hosei University Repository

[mi: s⌜sauŋ]（目を閉じる）。⌝ミー プ⌜ラックン [mi: pu⌜rakkuŋ]（目を開く）。⌝ミー ピ⌜カ⌝ルン [⌝mi: pi̥⌜ka⌝ruŋ]（目を大きく開いて見つめる。目で叱る）。⌜ミーピカ⌝ルン [⌜mi: pika⌝ruŋ]（急に目を大きく開き、痙攣を起こして手足が硬直すること。癲癇性の病気を起こす）。⌜ミークラー⌝ガン ⌜スン [⌜mi: kura:⌝gaŋ ⌜suŋ]（目くらみする。目まいがする）⌜ミーダラ⌝スン [⌜mi: dara⌝suŋ]（目を疲労させる）。⌜ミー⌝ヤ ⌜パー⌝ナルン [⌜mi:⌝ja ⌜pa:⌝naruŋ]（あっけにとられて、目を見張る）⌝ミー ⌜ムイルン [⌝mi: ⌜muiruŋ]（目がじらじらして霞む、老眼になる）、⌜ミーヤマ⌝スン [⌜mi: jama⌝suŋ]（「目を病ます」の義。見たためにそれを欲しがるようになり、思い悩むようになる）。ミー ⌜パン⌝クン [mi:⌜paŋ⌝kuŋ]（目を大きく見ひらく。まぶたをひっくりかえす）⌜ミーヌ⌝ユク [⌜mi: nu⌝juku]（目の欲。見たために欲が出て不正を働くうになること）、⌝ミー ム⌜ドゥ⌝ルン [⌝mi: mu⌜du⌝ruŋ] （視力が回復する。老眼が直る）

⌝ミーキラー [⌝mi: kira:]（名）「目切れ」の義。瞼などに傷跡のある人。女性。女性は顔に傷跡が残ることを非常に嫌った。目に腫れものが出来て、その傷跡が残ると、特に女性は不美人の要素として嫌われた。例、⌜イン⌝ヌヤー ム⌜タ⌝ビティ ⌜ゴーラス⌝カー ⌜デー⌝ジ ⌜ダー ⌝ミーキラー ⌝ナルン ⌜ダー [⌜ʔin⌝nuja: mu⌜ta⌝biti ⌜go: rasu⌝ka: ⌜de:⌝dʒi ⌜da: ⌝mi: kira: ⌝narun ⌜da:]（ものもらいをいじって化膿させると大変だぞ。瞼の傷もちになるぞ）

⌜ミー⌝グヮー [⌜mi:⌝gwa:]（名）目の小さい人。小さい目、ーグヮー [-gwa] は指小辞で、沖縄本島方言から借用されたもの。これが再転訛して、ーガー [-ga:] となり、若年層で多用されていた。⌜ミー⌝グヮー [⌜mi:⌝gwa:] は、⌜ミー⌝ガー [⌜mi:⌝ga:] ともいい、多少の軽蔑感が伴う。他面、親近感も伴う。

⌜ミーコー⌝ヤー [⌜mi: ko:⌝ja:]（名）「目強飯」の義か。お目覚め用に食べる飯。子供が朝起きるとき、前夜の御飯の残りや、おかず（御菜）などを朝食の前に与えて目覚めさせるもの。幼児等は朝起きて泣くことが多いので、これを与えて愚図つかさぬようにした。例、⌜ミーコーヤー⌝ヤ ⌜マイヌ・ミース⌝バ ⌜ゴー⌝ラ ッ⌜ファーソーッ⌝タ [⌜mi: ko: ja:⌝ja: ⌜mainu-mi: su⌝ba ⌜go:⌝ra f⌜fa: so: t ⌝ta]（お目ざめには、多く、米味噌を食べさせて下さった）

⌜ミーコー⌝ルン [⌜mi: ko:⌝ruŋ]（動）「目こわばる」の義か。目強張る。目が冴える。眠気がなくなる。⌜ミーコーラ⌝ヌ [⌜mi: ko: ra⌝nu]（目が冴えない）、⌜ミーコー⌝リティ [⌜mi: ko:⌝riti]（目が冴えて）。例、ユー⌝ル カ⌜タサー ⌝ヌムカー ⌜ミーコー⌝リティニ⌜バラン⌝ ナルティ ⌜ゲ⌝ラ [⌜ju:⌝ru kḁ⌜tasa: ⌝numuka: ni⌜baran ⌝narunti ⌜ge⌝ra]（夜、濃い茶《堅茶》を飲むと、寝むれなくなるさ、君も知っているでしょう）

⌜ミースー⌝ルン [⌜mi: su:⌝ruŋ]（動）「目強くなる」の義か。すっかり目覚める。眠りから

Hosei University Repository

覚めて、正常な状態になる。「ミースーラ˥ヌ [「mi: su: ra˥nu] (目覚めない)、「ミースーラ˥シ [「mi: su: ra˥ʃi] (目覚めさせる)、ア「サボン˥ユン ˥ノーン ッ「フー˥カー 「ミースーリ˥ス パジ「ダー˥バ 「ウンダ 「サー˥クバ [ʔa「sabon˥ junnon f「fu: ˥ka: 「mi: su: ri˥su padʒi 「da: ˥ba 「ʔunda 「sa: ˥kuba] (朝食でも食べたら目覚めるだろうから、それから連れて来なさい)

「ミーヌ・˥カー [「mi: nu˥-ka:] (名)「目の皮」の義。目蓋、瞼のこと。例、˥ユビーン 「ユー˥キ 「シーブレー˥ル 「ミーヌ・˥カー フ「クリ 「アー˥クンティ [˥jubi: n 「ju: ˥ki 「ʃi: bure: ˥ru 「mi: nu-˥ka: Φu̥「kuri ʔa: ˥kunti] (昨夜も夜起き《夜更し》をしたにちがいない。目の皮《目蓋》が腫れているさ、見てごらん)。

「ミー˥ヌ・シ「ビ [「mi: ˥nu-si「bi] (連語)「目の尻」の義。目尻の意。例、「ミー˥ヌ シ「ビ˥ナー 「ミーヌ・ッス˥ヌ タ「マリ ベ˥ー [「mi: ˥nu ʃi「bi˥na: 「mi: nu-ssu˥nu ta「mari be˥:] (目の尻《目尻》には、目くそがたまっている)

「ミー˥ヌ・˥シン [「mi: ˥nu-˥siŋ] (連語)「目の芯」の義。目頭の意。ミー˥ヌ ˥シンナミ「ツム˥ヌ 「ペー˥リティ ˥ヤムカー 「シー˥バ 「アーシ 「イリティ ˥トゥリ ッ「フォーッ˥ タ [「mi˥nu ˥ʃinna: mi「tsumu˥nu 「pe: ˥riti ˥jamuka: 「ʃi: ˥ba 「ʔa: ʃi「ʔiriti ˥turi f「fo: t˥ta] (目の芯《目頭》にゴミが入って痛むと、お乳を出して《搾乳して》目に入れて、取り除いて下さった)

「ミーヌ・˥ッファ [「mi: nu˥-ffa] (名)「目の子」の義。「まなこ」と同源。瞳の意。瞳孔も含めた、虹彩全体をいう。例、「ミーヌ・˥ッファ キ「サ˥レーカー ˥メー ˥ムノーミ「ララン˥ ヨー [「mi: nu˥-ffa: ki̥「sa˥re: ka: ˥me: ˥muno: mi「raraŋ jo:] (「目の子」《虹彩》を切られたというのであれば、もう、ものを見ることはできないよ)

「ミーヌッ˥サン [「mi: nus˥saŋ] (形)「見にくし」の義か。見苦しい。目ざわりである。体裁が悪い。例、ウ「リヌ 「シーヨームイヨー˥ヌ ˥ドゥク 「ミーヌッ˥サティル ˥ウヤー イッ「ケナ˥ キ「ム˥ヤミ 「オーッタン˥ドゥ 「ヤータ スン˥ケン 「マーラソー˥リ 「ナーン˥セン [ʔu「rinu 「ʃi: jo: -muijo: ˥nu ˥duku 「mi: nus˥satiru ʔuja: ʔik「kena˥ ki「mu˥jami 「ʔo: ttan˥du 「ja: ta 「suŋ˥kem 「ma: raso: ˥ri 「na: n˥seŋ] (その人のやり方《仕様模様》が見苦しかったので、親は大変心を痛めておられたが、しばらくすると亡くなられてしまった)

「ミーヌ・˥ッス [「mi: nu˥-ssu] (名)「目のくそ」の義。めやにの意。眼病にかかると、目くそがいっぱい出て、上下の睫にくっついて目が開けられないこともあった。例、「ミーヌ・ッス˥ヌ カ「タマリベー˥ティ ˥ユー 「バイティ˥ ウ「リ˥シ ヤー「ラマ˥シ ッ「スリ [「mi: nu-ssu-mn kḁ「tamaribe: ˥ti ˥ju: 「baiti˥ ʔu「ri˥ʃi ja: 「rama˥ʃi s「suri] (目やにが固まっているので、お湯を水で割ってぬるくし、それでゆっくり、ていねいに拭き取れ)。

Hosei University Repository

┐ミーパガー [┌mi: paga:] (名)「目禿げ」の義。目病にかかって、目の周囲が赤くただれている人。卑語。不美人の代名詞として用いられ、笑いの対象とされる。

例、プ┌スヌ┐ ビ┌ナ┐ー ┌ウイ┐ナー フ┌ヨー┐ン ┐アリ ミ┌ジヌ┐ イ┌キラ┐サンダ┐ ミーパガー ┐ナリ ┌ベーン┐ティ [pu̥┌sunu┐ bi┌na┐: ┌ʔui┐na: Φu┌jo:oŋ ┐ʔari mi┌dʒinu┐ ʔi┌kira┐sanda ┐mi: paga: ┐nari ┌be:n┐ti] (人間として、そもそも不潔で、怠惰であり、水の少ない所だから、目はげの病気にかかっているさ)

┌ミー┐ヌ・フ┌チ [┌mi:┐nu-Φu̥┌tʃi] (連語)「目の口」の義。目頭の意。ミー┌ヌ ┐シン [┌mi:┐nu ┐ʃin] (目の芯) ともいう。

例、┌ミー┐ヌ フ┌チェー┐ アガーア┌ガ┐シ タ┌ダリティ ┐ミーパガー ┐ナリ ベ┐ー [┌mi:┐nu Φu̥┌tʃe:┐ ʔaga:-ʔa┌ga┐ʃi ta┌dariti ┐mi: paga: ┐nari ┌be┐:] (目頭が真赤にただれて、目禿げ《眼病》になっている)

┌ミーヌ・┐マチ [┌mi: nu┐-matsi] (名)「目の睫」の義。単に、┐マチ [matʃi] ということもある。サ┌カマチ [sa┌kamatʃi] (逆睫) は、睫が内側に生えたもの。

例、┌ミーヌ・マチ┐ヌ ナ┌ガー┐ プ┌ソー┐ ア┌バ┐レーン [┌mi: nu-matʃi┐nu na┌ga:┐ pu̥┌so:┐ ʔa┌ba┐re:ŋ] (睫の長い人は美しい《美人である》)

┌ミーヌ・┐ユク [┌mi: nu┐-juku] (連)「目の欲」の義。見ることによって、そのものを欲しがる気持ちが起きること。見なければよかったのに、見たばっかりに、つい出来ごころが起きること。例、┌ナーン┐カー ┌ナーン┐ムティヌ ク┌ラシン┐ ナ┌リ┐シタンド イ┌ルジ┐ナムヌ ┐ミリティ ┌ミーヌ・ユク┐バ ┐シキティル シ┌ルッ┐コー ┐ナレー ┌ツォー [┌na:ŋ┐ka: ┌na: m-┐mutinu ku┌raʃin┐ na┌ri┐ʃi̥tandu ʔi┌rudʒi┐na-munu ┐miriti: ┌mi: nu-juku┐ba ┐ʃikitiru ʃi┌ruk┐ko: ┐nare: ┌tso:] (なければ無いなりの暮らし《生活》も出来たのであるが、いろいろなものを見てしまって、目の欲が出て《不正をはたらく結果となり》、生活を破綻させてしまってあるんだよ)

┌ミーピカリ・┐ムヌ [┌mi: pikari┐-munu] (名)「目光り者」の義。癲癇症の人。失神しやすい人。例、ウ┌ヌ ┌ッファー ┐グマー┌グマー ┌シェーン┐ケンラ ┌ミーピカリ┐・ムヌティ ア┌ザリブタ ┐ヨー [ʔu┌nu ┌ffa:┐ guma:┌guma: ┌ʃe:ŋ┐kenra ┌mi: pikari-┐munuti ʔa┌dzaributa┐jo:] (その子は、幼少の頃から《小さかった頃から》癲癇症の人といわれていたよ)。高熱を発すると、失神状態になり、目を大きく見開いて、体を硬直させる癖のある者をいう。

┌ミーピカ┐ルン [┌mi: pika┐run] (動)「目を光らせる」の義。転じて、年長者から叱られる。ぎょろ目で叱られる。癲癇を起こす。

例、ヨー┌ヨー┐ アブジェー ┌ミーピカ┐リ ┌オー┐ル ┌ダー ┌デー┐ジ ┌ダー [jo:┌jo:┐ ʔabudze: ┌mi: pika┐ri ┌ʔo:┐ru ┌da: ┌de:┐dʒi ┌da:] (ほらほら、おじいさんが目を光らせて怒っていらっしゃるぞ、大変だよ)。ニ┌チ┐ヌ ┌ノー┐ ア┌ガリ

Hosei University Repository

ティ ˥ミーピカ˥リ ˥シーベー˥タ ˥ヤー [ni˥tʃi˥nu ˥no:˥ ʔa˥gariti ˥mi: pika˥ri ˥ʃi: be:˥ta ˥ja:] (熱が脳にあがってしまって、目を光らせて《引きつけを起こして癲癇症状を起こして》いたよ)。ウ˥ヤ˥ヌ ˥ミーピカラ˥シ ˥オーラン˥カー ッ˥ファー˥ヤ˥ビ˥ムヌ ナ˥リ˥ス [ʔu˥ja˥nu ˥mi: -pikara˥ʃi ˥ʔo: raŋ˥ka: f ˥fa:˥ ja˥bi˥munu na˥ri˥su] (親が注意して監督していないと、子どもはぐれた子供になってしまうよ)

˥ミー˥ムタイ [˥mi:˥mutai] (名)「目もたげ」の義。「見向き」の意。応答するために顔を持ちあげること。挨拶すること。関心を示す。例、˥ウナー ˥ベーン˥ドゥ ˥ヨー ˥イカー˥サ ˥アイ˥ジ シ˥タンティン ˥ミームタイ˥ヤンツァン ˥サヌ [˥ʔuna: ˥be: n˥du ˥jo:˥ ʔika:˥sa ˥ʔai˥dzi ʃi˥tantim ˥mi: mutai˥jantsan ˥sanu] (そこに居るんだがねえ、どんなに合図《挨拶》しても、見向きもしないよ)

ミー˥ヤー˥マ [mi:˥: a:˥ma] (名) 目の小さい人。小さい目、-マ [-ma] は指小辞。愛称を表す。-マ [-ma] が下接する際、①上接語の末尾母音が広母音の [a] の場合、それを長母音化させて、-マ [-ma] がつく。例、pa˥ta (旗) → [pa̯˥ta:˥-ma] (小旗)。②上接語の末尾母音が奥舌狭母音の [u] の場合、奥舌半広長母音の [o:] となって、-マ [-ma] がつく。例、[pa˥ku] (箱) → [pa̯˥ko:˥-ma] (小箱)。③上接語の末尾母音が、前舌狭母音 [i] の場合、前舌半広長母音 [e:] となって、、-マ [-ma] がつく。例、[ta̯˥ki] (竹) → [ta̯˥ke:˥ma] (小竹)。④上接語が／CVV／構造で、しかも末尾母音が前舌狭母音 [i] の場合、接中辞 -ヤー [-ja:] が現れ、それに指小辞 -マ [-ma] がつく。例、[ki:] (木) → [ki: -˥ja: -˥ma] (小さな木)、ガイ [gai] (杓文字) → [gai-˥ja:˥-ma] (小さな杓文字)、[gui] (杭) → [gui-˥ja:˥-ma] (小さな杭、材)。

˥ミー˥パナ [˥mi:˥pana] (名)「目鼻」の義。顔のこと。顔全体を「目」と「鼻」で代表させた表現。˥シラ [sira] は、「頬」の部分に中心的な意味があるのに対し、ミー˥パナは「顔全体」の表現に中心的意味がある。˥ミー˥パナ フ˥クリティ˥ キ˥ムイ˥ツァーン [˥mi:˥pana Φu̯˥kuriti˥ ki˥mui˥tsa: ŋ] (顔が腫れて、かわいそうだ) は、「顔全体」の表現が意味の中心となっている。

˥ミー˥ヨー [˥mi:˥jo:] (名)「目様」の義か。目つき、目で合図すること。目でものを言うこと。目くばせ。例、プ˥スン˥ヤン プ˥スヌ ˥オー˥ル ˥マイ ˥ヤッタベー˥ティ ウ˥ヌス˥ク ˥ミー˥ヨー ˥シー˥ ア˥ジ˥ シゥ˥カスンドゥ˥ ムッ˥トゥ˥ シゥ˥カヌ [pu̯˥sun˥jam pu̯˥sunu ˥ʔo:˥ru ˥mai ˥jatta-be:˥ti ʔu˥nusu̯˥ku ˥mi:˥jo: ˥ʃi:˥ ʔa˥dzi˥ si̯˥kasundu˥ mut˥tu˥ si̯˥kanu] (他人の居られる前だったので、あれほど目で合図して言い聞かせた《注意した》が、いっこうに聞き入れない)

ミ˥ツ˥ム [mi˥tsu˥mu] (名)、目の中に入ったごみ (塵埃) のこと。「目粒」の義か。子供の目にミツムが入って泣くと、母親は、母乳をしぼって目の中に流しこみ、洗い流したものである。母乳は目の中に入ってもカサカサせず、滑らかな感じである。例、˥ミー˥ン

Hosei University Repository

ナ┌カ┐ナ　ミ┌ツムツ┐ヌ　┌ペー┐リティ　ヤ┌ミ┐シバ　┐トゥリ　ッ┌フォー┐リ　[┌mi:┐n na┌ka┐na　mi┌tsumu┐nu　┌pe:┐riti　ja┌mi┐ʃiba　┐turi　f┌fo:┐ri]（目の中にごみが入って痛いから取って下さい）

┌ミン┐タマ　[┌min┐tama]（名）「目の玉」の義。眼球の意。目の大きい人を、┌ミン┐タマー　[┌min┐tama:]という。例、┌ミー┐ヤ　ピ┌カ┐リティ　┌ミン┐タマー　┐グルグル　シ┌ティー┐　プ┌　ス┐　ミ┌　ロー┐ッ┐　ター　[┌mi:┐ja　pi̥┌ka┐riti　┌min┐tama:　┐guruguru ʃi┌ti:┐　pu̥┌su┐　mi┌ro:t┐ta]（目は大きく見ひらいて、目ん球をギョロギョロさせて、人を見られた）